

研究学園都市周辺，地質の見どころ (その2)

坂本 亨(地質部) 正井 義郎(総務部)
Toru SAKAMOTO Yoshiro MASAI

筑波台地をつくる第四紀層の底はどうなっている……。筑波大学の構内で掘ったボーリングでは 地表から約430mの深さで 基盤にぶつかっています。そこで 基盤の岩石を見たという時は 庁舎の窓から北に望む採石場の大露頭が第1候補です。ここには 八溝—筑波山地をつくる中〜古生層の南端が分布しています。地層は弱い変成を受けていますが もともとの堆積構造は明瞭に残っています。ただしここは 作業中の現場ですから 事務所によくことわって 発破の時刻も確かめてから入りましょう。ヘルメットも用意したいところです。

花崗岩を見るには 小田の街の入口の石切場がもっとも手近な所です。ここは筑波型といわれる花崗岩を切出しています。鉱物の配列に方向性がある 多少の縞目を見せるのが 石材としては惜しいところとか。切出したばかりの整形していない巨大な岩塊は迫力があります。

第3の見学地点 北東東方の平沢の旧採石場は 以前から見学者が多く有名な所。現在では多少見にくくなっていますがここは筑波山地の中〜古生層のうちもっとも強く変成を受けている所です。花崗岩やベグマタイト・アブライトの貫入状況も見られます。

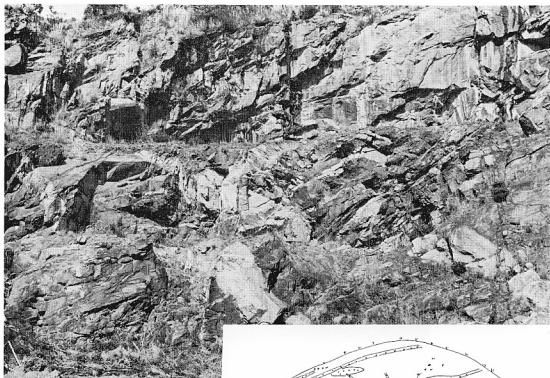


写真1 平沢の旧採石場。

右下のスケッチは 大森昌衛・蜂須紀夫編『日曜の地学8 茨城の地質をめぐって』築地書館刊 1979)によるものですが 写真はこの図の左半分を示している



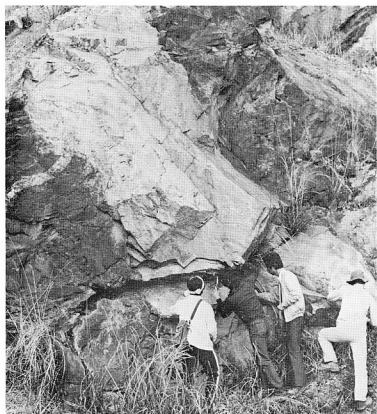


写真2
ペグマタイトの貫入。このペグマタイト
中には色の美しいガーネット(ただし細粒)
が多数含まれている(平沢の旧採石場)。

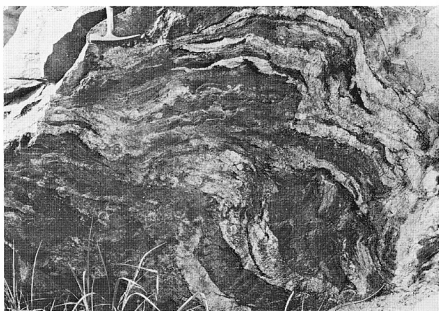


写真3 変成を受けた中〜古生層の褶曲構造(平沢の旧採石場)。

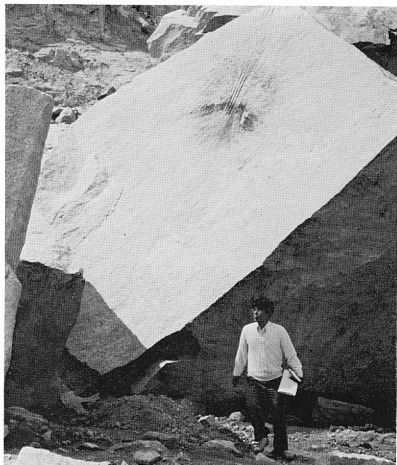


写真 4
小田の石切場。花
崗岩の岩塊 弱い片
状構造が見られる。

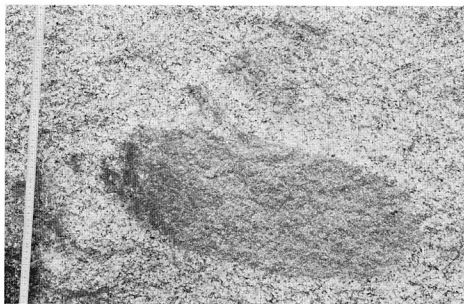


写真 5
同上 花崗岩にとり込
まれたゼノリス

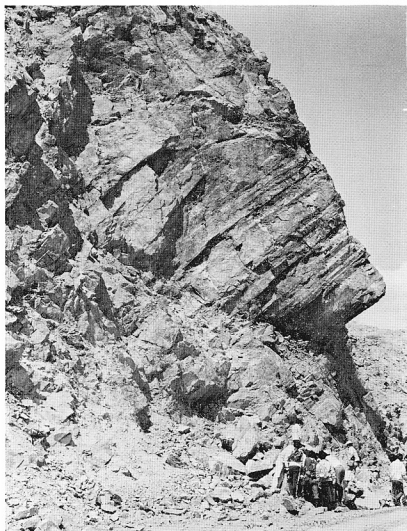


写真6
東城の採石場 砂岩・泥岩の整然
とした互層

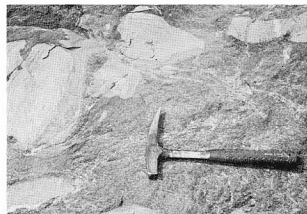


写真7 東城の採石場 砂岩層がちぎれて泥岩中に塊状にとり込まれているスラップ構造

